

牛久の偉人図鑑②

牛久の歴史や文化の発展に功績を残した偉人をご紹介します

イラスト制作は市内5校の
中学校美術部生徒が順番に
担当します!

問 広報広聴課
☎内線3221、3222



イラスト：Y

ゆかりの人物

多くの偉人たちと交流

「近代日本経済の父」と称される渋沢栄一とは多くの企業設立での共同作業を行いました。また、文豪・森鷗外や、政治家の勝海舟、山岡鉄舟、榎本武揚、板垣退助、土方久元など多くの著名人と親交がありました。



牛久シャトーでの祝宴に出席する板垣退助(大正2年)



葡萄園を視察する土方久元(大正4年)

こぼれ話

16・7歳頃の傳兵衛は色白でやせ型の美男子であったことから、村の娘たちに人気だったといわれています。



若いころはモテモテ!?

新情報

旧飯島家住宅で傳兵衛に関する史料が新たに発見されました!

国の登録有形文化財に登録が予定されている旧飯島家住宅(牛久町90)から、傳兵衛に関する史料が新たに発見されました。※飯島家は、明治30年代に神谷葡萄園の土地購入の交渉代理人を務めていました。



日本のワイン王

人物像

誠実な人柄は幼少期から

9歳のころ、見習い仕事の帰り道に落ちていた小判を見つけ、持ち主を探して届けたため、「松さん(幼名:松太郎)は正直者」という評判が立ったことも。



イラスト：さんげん



イラスト：みっちゃん

イラスト：マツレス

Kamiya Denbe

神谷 傳兵衛



イラスト：Sono

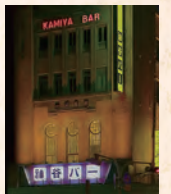
基本データ

【生没年】安政3年(1856)～大正11年(1922)
【出身地】三河国幡豆郡松木島村
(現・愛知県西尾市)
【主な業績】日本初の本格的ワイン醸造場(現在の牛久シャトー)の開設、浅草「神谷バー」の創業者、国内初の無水アルコール製造成功、三河鉄道(愛知県)の再建

ゆかりのスポット

神谷バー(東京都台東区浅草1-1-1)
(傳兵衛が開業した旧みかはや銘酒店)

名物の一つが明治26年ごろ誕生したリキュール「電気プラン」。当時目新しい物は「電気〇〇」などと呼ばれるものが多く、ハイカラな酒として登場しました。懐かしい味を求めめる人で今も賑わっています。



日本を代表する実業家のひとり

苦難から始まった商人への道

傳兵衛は、代々名主を務める裕福な家の6男として生まれましたが、実家の没落により幼少期から桶製造や商業の見習いとして働きに出る苦勞を重ねました。12歳で一度は商人として独立し順調に商売を成長させるも、先物取引の失敗や詐欺に遭うという悲劇に見舞われてしまいました。

ワインとの出会い、開業

転機は明治6年、17歳で横浜のフランス人経営「フレツレ商会」で働いていたときのこと。あるとき原因不明の激しい腹痛に襲われ、生死の境をさまよった傳兵衛は、主人が勧めたワインを飲んで体調が回復しました。この体験からワインの滋養効果を確認し、いつか誰でも飲めるようなワインを造るという志を立てます。明治13年、東京・浅草に「みかはや銘酒店(現・神谷バー)」を開業。濁り酒の一杯売りから始め売り上げを伸ばし、ついに明治19年に「蜂印香露葡萄酒」を発売。これが全国的な人気を博し、日本にワイン文化を浸透させる礎となりました。



現在も復刻ラベルで販売

牛久シャトーの誕生

明治30年、ブドウ栽培やワイン醸造を学ぶためにフランスのボルドーに留学していた婿養子の神谷

傳藏が帰国すると、稲敷郡岡田村(現在の牛久市)に農地を取得。フランス・ボルドー産のブドウ苗6000本を移植し、「神谷葡萄園」を開園しました。また、園内にワイン醸造施設を建設、明治36年に日本で初めてブドウ栽培からワイン醸造・瓶詰・出荷までの工程を一貫して行う「牛久醸造場(現・牛久シャトー)」を完成させたのです。

ワイン以外にも多くの事業を興し大成功する一方、度重なる災害や慈善事業、教育事業等に多額の寄付をしながら、そのことをことさら吹聴することはなかったという傳兵衛。大正11年、66歳でその生涯を閉じました。

合同酒精株式会社旭川工場

(北海道旭川市南四条通20-1955)
明治32年に傳兵衛が設立した酒造工場(日本酒精製造株式会社)。今も旧蒸留棟が残されています。



旭川ラーメンの生みの親??

傳兵衛は、上記の酒造工場で大発生する「アルコール粕(残りかす)」をえさとして旭川で養豚を始めました。この養豚が、豚骨と煮干しなどを合わせてだしをとるダブルスープが特徴の「旭川ラーメン」誕生につながったという説もあるそう。

こぼれ話

【イラスト制作】牛久第一中学校美術部 【参考文献】神谷傳兵衛(坂本箕山・著、味岡源太郎・復刻著 中日新聞社 2018年)



イラスト：ろくめい



イラスト：ちよ